

## 発表要旨④

# 東北で働くブータン人技能実習生

東北大学大学院文学研究科 博士前期課程 栗田陽子

本発表の目的は、東北で働くブータン人技能実習生を対象に、日本の技能実習制度とブータンの近代化について考察することと、日本で暮らす実習生の日常を紹介することである。技能実習生は、労働力が不足している産業において大きな役割を果たしてきた。近年では、東北地方で暮らす外国人の5人に1人が技能実習生であり、東北の多文化共生を考える上で彼らを抜きに語ることはできないと言えよう。

南アジア地域の小国であるブータンは1961年に開発政策を始め、社会経済的な発展を遂げた。その発展は様々な社会問題を引き起こした。その1つが、急激な人口増加に伴う若者の就職難である。この問題を解決するために、ブータン政府は若者の求職者を国外へ送るという政策を発表した。今までに若者が派遣されたのは、インドやタイ、クウェートなどであり、日本もその1つである。

現在日本で暮らすブータン人技能実習生は18名であり、東北を中心に建設、自動車整備、板金などの分野で働いている。ブータン技能実習生を日本に招いたのは1人の在日ブータン人男性である。彼は日本人女性と結婚し、1998年から日本で暮らしている。政府の発表を聞き、日本にも若者を招聘したいと考えた彼は、日本とブータンでそれぞれ築いたネットワークを最大限に活用し、ブータン人技能実習生を受け入れる準備を整えた。初めてのブータン人実習生は2015年10月に来日した。彼らはそれぞれの実習先で、経済的、言語的、文化的問題にぶつかりながら、日常生活を営んでいる。ブータン人実習生たちの生活からは、以下の二点のことが分かった。

一点目は、同国人の重要さである。実習生たちを日本に招いた在日ブータン人男性は、彼らを公私にわたって支援している。彼の存在は、日本にブータン人が少ないからこそ、より大きいものとなっている。一方で、ブータン人同士のコミュニティはまだ強くなく、日本人と良好な関係を築く実習生もいる。二点目は、日本語の重要さである。講習で習った日本語は、実習先でもそのまま使うことは難しい。しかし、彼らが日本で人間関係を築くために大きな役割を果たしていることが分かった。実習生たちが働き始めた後の日本語学習の場を整える必要がある。

技能実習という制度は、日本とブータン両方にとって重要である。日本側にとっては、足りない労働力を補う存在として、実習生は非常に重要である。ブータンにとっては、雇用不足を解消する手段として今後も技能実習生を送り出す可能性がある。東北地方は外国人散在地域である。一方で、日本にいるブータン人も少なく、強いコミュニティがあるわけでもない。そのため、ブータン人実習生と日本人はお互いに関わらなければならない機会が増えるのではないだろうか。外国人散在地域である東北地方に来日したブータン人技能実習生たちは、東北の多文化共生の新しい可能性を示唆している。